



附
録
三



鷲鳥とワレと川すのり古一
姓氏録
舊事紀

姓氏録云高魂命孫天日鷲翔矢命

東雅云和名欽日ハ唐韻の鷲大鷲也と云て月て鷲と

後てあわやと云山海経の鷲鳥少鷲也といふをりて

鷲鳥と云てあわやといふと後せり

大和本草云鷲鳥ニ大小アリ尾十三枚以上ヲ大鳥ト云十二枚

以下ノ小鳥ト云鷲鳥衆鳥ノ内を猛くカツコシ小兒ヲウカム

コト古来有之夫ヲハグニ大鷲鳥ノ尾ニ大中黒アリ稀ナリカ

ウスベウモ大ワシノ尾ニアリコレハ多シ中白ヲ切文ト云

武用辨畧云鷓鴣ハ毛黒ク眼青鬚角青ク脛ニ毛アリヲ鷓鴣ト知ヘシ
觀文禽鳥譜云大サクニカヨリ稍大尾長翅短シ此角曲深目
羽毛土黄色此角足黄力甚ツシ翅箭翎ニ作ルヘシ花鏡ニ
説トコロニ違フナシ

萬葉集 和歌

作ルヘシ花鏡ニ
新六帖

又ハオモね成キルハハカクシクニシテ此物アリクニ此物
作ルヘシ花鏡ニ

秘藏抄

山深ニ棲スニたまシクノホカ成リクニ此物アリクニ此物

家集

為忠

作ルヘシ花鏡ニ

秋名

コトコト

コトコト

秘藏

鷓鴣 和名録別 小鷓 日 山海經

いぬわー

和漢三才圖會云いぬわーハ鷓鴣ニ似テ尾の毛と白く末
黒一カも稍劣老化ハ頭より尾に至テ灰白と灰黒と

駁す呼て能りしと云

觀文禽譜云今按ルニ仙臺嶺ニテ捕得ル養フ者アリ羽ヲ取テ矢羽トス鶴鳥ニクラフニバ劣リリ毛色鶴鳥ヨリ黒ク形ヤハナリ

釋名

熊鵬 武用 辨畧

くまわ

和漢三才圖會

いぬわー口

あわわー

大和本草云矢ヲハグニ大鶴鳥ノ尾ニ大中黒アリ稀ナリ
スカウスヘウモ大ワシノ尾ニアリコレハ多シ中白ヲ切フト云

觀文禽譜云又清ノ百鳥図ノ鳧鵬ヲ觀ルニ形鶴鳥ニ違フトトナクシテ全身白兒黒眼大ニテ黄嘴角黒シテ黄ラ帯フ尾亦灰黒脚黄ナリ

釋名

あわわー 和名鈔

あわわー

あわわー

いぬわー

大和本草云海邊ニスムラ磯鶴鳥ト云ト云ナリ
觀文禽譜云毛色鳧ノ如シ砂村ヘニヨリ捕テ獻ス是ナリ
築師是ヲサハシナト云小ブリナリ

あわわー

いぬわー

三

あゝや

觀文禽譜云松前ノ家来先年西蝦夷地イニカリト云
所上陸地ヨリ通行セシトキ道ニテ白キ鷲ヲ見シユヘ
蝦夷人共ニ取シコトヲ余シケルニカムイ神ノナリトテ取コト也
ヲ肯セサリシト總テ蝦夷人ハ荷ニテモ微シク様カワリタル
怪シキ者ヲハカムイト云ヨシ松前大炊介ノ書中ニ見ヘタ
リ

こび

こびも音云みし鷲曲り毛羽きなるく能雲間舞也
奥賜寺で見えて俄ヨリ捕食ハ悪念するるなり屋

よよ止り鳴ハ雨の兆なり

神武紀云金色靈鷲飛来止于皇ヲ弭

和歌
夫木

こびの和名井杓の杓るハ一々めらるるなりなまら成るまら
釋名

こび 和名鈔○東雅ニ或説テ行テ云 六ノ秘のこび 八雲御夜神武天
皇義兵時々上

ニ居鷲也為 吉相と云ん 鷲 字鏡 鴨 日

くはこび

和漢三才圖會云狀如鳥ニ似テ羽毛アカク飛翔シテ鳥
ヲ執テルコトアタハス々々牛馬ノ枯米異或ハ魚物鳥ノ雛
ヲ攫ミテ食フ

こび

觀文禽譜云忠詔朝臣云ハヤフサニ似テ小食物ノ類目ニ
フル、者攫之食フ小鳥ヲモヨリハ捉得ス故ニ鷹鳥ニ非スト
云意ニテ非々カトイヘルニヤ

釈名

くらやまび 和名鈔 屎鷄 今昔物語 まくらやまび まくらやま

長元坊 和漢三才 因會 くらやまびかこ

濱鳶

惣体鳶よりサリ大きく尾鳶と似ル一遠ふからかふ
鳶と磯鷲とのちるあり

みさご

景行紀云渡沓水門是時聞覺駕鳥之聲

觀文禽譜云稻若水郭景純カ説ヲ引テ云フ小如鷄翱翔

水上扇魚令出沸波攫而食之者是也 詩經ト云説ニ從フ云

近國マレハ相州江の鴻兒カ測さ多し形か多し似て大き羽

翅白黒の斑紋あり常ニ空中ニ飛て魚の水上ニ浮

むと挿念し或説ふニ補乃鳥を岩間ニ貯く乃を

ミさゴとイふ身孔あれも人乃如く今の鳥の

みさごといふ

みさご

み

和歌

万葉集

みさごのふりまをみまの
秘藏

かき清しぬきとての
みまのふりま

新名

みさご万葉集〇白石云水砂 みるこさともせり
秘藏〇金巻

みさご除のり かたがし 響行紀日本紀私託公望
水沙兒 名 万葉

ひさご江州 びとやご みさご
結州

こまやご俗の詠 ふたか 鶉 下学集 鳴鳩 詩經

よたろ

よたろとみはくしりるる
の異名とするは

別の一物あり

観文禽語云よたろヨタカハ大サきツクノノ毛色ク灰ノ足

ハ行フ褙ノ帯眼大ノ角ノ根ニ鬣アリ翅黒シテ長ク尾

亦雞鷹ノ如クノ尻ニ斑アリ脚脛ニテ毛アリ夜ニ飛

テ虫及子トリヲ捕テ食フト云

新名

よたか和名鈔

みづほく

形鳥の如くくくくくくく頭圓くくくく兩耳あり正旦六日
現へ本加又山林中隠れ夜に里に去り鳥籠の如く
捕食ふ又鳴くくくくくくく聲平俗に五郎助かきくくく云
極の如くくくく

仁德紀云初天皇生日木菟入産殿明日譽田應神天皇喚

大臣武内宿祢語之曰是阿瑞也大臣對言吉祥也復當

昨日臣妻産時鷓鴣入于産屋是亦異焉爰天皇曰

今朕之子与大臣之子同日其産兼有瑞是天之表焉

以為取其鳥名各相易名子為後葉之契也則取鷓

鷓名以名大子曰大鷓鷓皇子取木菟名號大臣之

子曰木菟宿祢是群臣之始祖也

觀文會譜云奥州に小鳥ヲ捕ニ林中ニ入樹上ニ繫テ媒

トナシ側ノ樹ニ黏竿數十ヲ挿ニ諸鳥ノ音ヲニ子ル笛ヲ

吹ツクノ足ニ著タル糸ヲ引動ハ諸ノ小鳥數多ツクヲナラ

ラントテ集リ黏竿止ルヨリ一朝ニ數十ヲ得俗是ヲツク

吹ト云

和歌

夫木

河川の山原をみむしけほくくくく世のよ成りくくく

新六帖

山かきよるこれ鳥かすをたかすむこをくもきくやぶる

新名

げく 日本紀 けく 和名 げく 雲州 木菟 仁徳紀 又鳥菟

あけをげく

観文禽譜云又尾 十ガツノトモ云 高かけくはは ハカラスノ 如ニシテ

尾長ク全身蒼黒四鳥トナストイヘトモ来リ集ニラス 其眼畫克物ヲ見

新名

あけをげく 尾をげく

少げく

観文禽譜云或云形 アヲハツクニ 如テ尾短 シ 毛色黄

雌雞 ニシテ 毛角常 ニテ 互 ケルモノヲ 上高 トス 俗云

化 セシ 本ワラヒト云コレヲ架 ニ 敷素ケハ衆鳥来リ笑フ黏撰

ヲ出セハ多ク諸鳥ヲ得俗 ニ シク引ト云是則前 ニ 云処 ノ シク

吹ト同事ナラニ黒色白色ヲ帯モノ共是 ニ シク養法一宿

雀二雙

十の鳥をげく

大和本草云あめつくとみけはくぬくろくをさる

是もすく身ありやうらうらに似たり

觀文禽譜形状毛色由緒ツクニ似たりヒメノ大正ヒメノめのかしめて虫
ヲ食ふ今自え山及處々深山ニ出其性熱ス故ニ日者ヲ怯
亦惡食ヲナス臭氣アリテ羽虱ヲ生ス

喜六鳥

觀文禽譜云尾州ヲリ形未詳啼聲喜六ト呼カ如シ是
亦鳩鳩ノ類ナラン一説ニツクノ巢ニ籠ナラン

うくうくう

觀文禽譜云或云上徳ニ産スハツクニ似テ黒色啼トツ
コウハヤツコウト
うくうやうくうト云カ如シト今按スルニカツカウ鳥ヲ仙臺ニ

ニテトツトウト云美濃ニテカツホウト云ヲ見レハ同物ナ
ルモ知ベカラス

ぬくろ

ぬくろトも木鬼のぬろト屋ノ山中ニ入テ睡リ夜
ハ人家ニ来リ食ヲ求ム形トもニつクも似て身をく
影大リイテ描メ如ク夜中林中ニ或ハ屋上ニ鳴ル身聲
江戸ヨシハ五郎助ト云クト云形トのぬトイハ

長嘯子カ東山々家記ニ子トあトふトうトの聲
のうトすト桐トと啼ト人ト云クうトうトのぬト毛ト衣トのぬ

喜六鳥 うくう

みやみやんころあくく〜具るせき夜の食のとき
あ〜みつまるもまころめくへ〜りともま

釈名

あ〜みつまるもま和名鈔○白名云具声
とれ名とす也 さけ色名云成○白石云
其声の所と云

みやみやんころあくく秘藏抄 かわまきき厚直 ふらら京

あ〜みつまるもま阿波 あ〜みつまるもま御岐 ころあ〜みつまるもま伊勢

あ〜みつまるもま堂陸 よ〜みつまるもま皇極記 あ〜みつまるもま茅鷄日

あ〜みつまるもま字鏡 鷄日 鷄日

和歌

夫木

山深きけらけら記をよめるハせてあかあ〜みつまるもま
あ〜みつまるもま記をよめるハせてあかあ〜みつまるもま
秘藏

涼山深のあ〜みつまるもま記をよめるハせてあかあ〜みつまるもま

と〜みつまるもま

本朝食鑑云毛羽多赤有紫斑稍美可愛海國多有
觀文禽譜云耳ノナキヲ鼻トシ有ヲ木兔トスレ此ニ
鼻ナル者ハ耳アリ或耳夫ニツテルヲモ觀テヲ得
官ニ養フ者アリ松前ヨリ献セシ所ナリ全身王莖色ニメ

あ〜みつまるもま

大サクニカノ如ク又ニ鳥ニ似テリ深目ニ眼ノ中黄斑曲リ
テ鷹ノ如ク脚蒼黄又鷹ニ似リ兩角アルト木菟ノ
如ク蝦夷ニテクン子レキト云トニリス所ニ尺バカリアリ
松前ニテ嶋フクロウト云テ蘭山云茶家ノ拂末ニ造ル

秋名

鳥名 本朝 鳥名 角山 クン子レキ 祝文禽譜
蝦夷ニカ言

鳥名 鳥名

本朝食鑑云松前蝦夷ニ有形態同毛羽白く紫斑
の翎翹ありて最美るると云

天武紀十年伊勢國貢白茅鷄

蘭山京ニテモ觀場ニテニセシコトアリテ親シク見タリ

揚子ノ矢ニ用ユト云

秋名

鳥名 本朝 白茅鷄 天武紀

鳥名 鳥名

大和本草云鵬ノ如ク者俗名レウシトリト云其啼聲
フクロウト異ナリト云リ

蘭山云八閩通志似鴉而小俗呼孤猿トアレハコノ鳥ナレシ

鳥名



九
了
し
又
る

大和本草

孤
猿

八
通
志

